



# 長門の話題 Topics

油谷地区・日置地区でふるさとまつり

## イベントやステージを満喫

11月6日(日)にラポールゆや周辺で「2016ふれあいふるさとまつり in ゆや」が、11月13日(日)に日置農村環境改善センター周辺で「第35回日置ふるさとまつり」が開催され、多くの市民で賑わいました。  
「2016ふれあいふるさとまつり in ゆや」では、油谷湾で養殖された車エビのつかみ取り



▲初めて開催された車エビのつかみ取り(油谷地区)



▲約77メートルのジャンボのり巻きに挑戦(日置地区)

が初めて企画され、家族連れを中心に多くの来場者が参加。活きが良く、水槽内を跳ねるように動く車エビを、10秒間でどれだけつかめるか挑戦していました。

また、ステージでは、菱海・向津具保育園の園児によるお遊戯や、菱海中学校吹奏楽部の演奏、創立15周年記念公演を来月に控えた「油谷こどもミュージカル」のパフォーマンスなどが行われ、会場を盛り上げました。

「第35回日置ふるさとまつり」では、人気のイベント「ジャンボのり巻きに挑戦!」が行われ、全長77メートルのジャンボのり巻きを参加者で巻いて、司会者の合図とともに全員で持ち上げて、見事完成させました。また、バザー会場では千畳鍋や海産物の販売のほか、木のおもちゃ作りや各種展示もあり、参加者はまつりを楽しんでいました。

通小学校で平和学習

## 通の心を世界に広めよう

11月7日(月)、通小学校で日露戦争を題材にした平和学習が行われました。

全校道徳の時間を利用して「世界の平和は通から」と題して行われた授業では、日露兵士の墓碑を長年管理されている君川歌子さんが当時の様子を説明し、「祖父は流れ着いた遺体を拾い上げ、埋葬した。みなさんもやさしい気持ちで、いじめをしないでお互いに思いやる心を持つてほしい」と児童たちに伝えました。



▲日露兵士の墓碑について語る君川さん

け継がれた心や平和への願いについて話し合いました。授業の最後に富田校長が「通地区の人々は世界に誇れるやさしくて温かい心を持っています。みなさんもこれから通地区の心を受け継いでいってほしい。通の人々の心を世界に広めよう」とあいさつし、授業を締めくくりました。

参加した児童は「昔から通地区の人はやさしい心を持っていたことがわかりました。これからも受け継いでいきたい」と感想を話していました。



▲通地区のやさしさを伝える演習

# 長門の People

地域に笑顔と、元気を届けて15年。

油谷こどもミュージカル

(所属38人/活動場所  
ラポールゆや)



旬しゅんな人

子どもたちの創造性や可能性を伸ばし、地域とともに創り上げる文化事業として発足した「油谷こどもミュージカル」。平成14年度から毎年ラポールゆやで公演を重ね、12月18日には創立15周年記念公演を控えています。

制作などで公演を支えます。4月に始まった練習は、現週に一度のペースで実施。場面ごとに動きを確認し、観客を引き込む舞台作りをしています。今回の作品は9年ぶりとなる「オズの魔法使い」、主人公の少女が、カカシ・ブリキ・ライオンと出会い、虹の彼方の不思議な国「オズ」へ旅立つ物語です。「見どころは笑顔とダンス。前回の『オズ』を超える舞台にしたい」と話す子どもたちは、思いを一つに公演に臨みます。



▲今年の「ふれあいふるさとまつり in ゆや」でも一場面を披露

大津緑洋高校の生徒が商品開発にチャレンジ

## 商品開発を通じて魅力再発見

11月15日(火)、大津緑洋高校の生徒による地元食材を使った商品アイデア発表会が行われました。自分たちで調べたり、企業の助言を受けたりしながら試作を繰り返し、商品アイデア3品を発表。商品開発の経験を通じて、長門市の魅力を見直しました。



▲地元企業の代表を前にアイデアを提言

## 元乃隅稲成神社に新たな鳥居が完成 賽銭がさらに入れづらく

11月1日(火)、元乃隅稲成神社に新たな鳥居が完成しました。完成した鳥居は高さ6m、賽銭箱の位置は5mの高さにあり、以前の鳥居と比べ、約1m高くなっています。訪れた観光客は、さらに入れづらくなった賽銭箱に賽銭を投げ入れていました。



▲さらに高い位置に設置された賽銭箱